JE∆S環境アセスメント士 紹介

このコーナーは、各支部の推薦により環境アセスメント士を紹介しています(五十音順に掲載)。

JEAS in Hiroshima

環境アセスメント士になって

復建調査設計株式会社は、主に西日本に支社・事務所を配置し(東京以北では仙台、札幌、海外ではミャンマーに事務所があります)、地盤環境、防災、空間情報、社会基盤整備、環境、計画・建築、交通計画などの分野を中心に、総合建設コンサルタントとして業務を行っています。



復建調査設計(株) TEL.082-506-1837 http://www.fukken.co.jp/

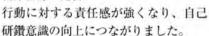
このうち、環境分野は、水圏環境、 新エネ・資源循環、空間創造(生活環境系の調査・予測・保全計画等)、生物環境の4つの課から構成され、本社の広島を拠点に、東京、大阪、福岡にサテライトオフィスを設けています。

私は入社後、主に港湾事業、廃棄物 処理事業、道路事業等に係る環境影響 評価業務を担当してきました。現在は、 環境技術部空間創造課の一員として、 本社広島で環境影響評価業務、環境保 全計画検討業務などを行っています。

環境アセスメント士の筆記試験では、 私が経験した条例アセスを題材に、コ ミュニケーション(住民が理解しやす い説明資料の作成等)に係る課題及び 解決策等について記述しました。

本資格取得後は、本資格が受注の資 格要件に指定されている業務の機会が なかったこともあり、対外的なアピー 生活環境部門(H17年) 大下 茂





また、社内では、プロポーザル作成 において、環境配慮事項等に関する相 談を受けることが多くなったと感じて います。さらに、環境アセスメント士 取得に向けた取り組みが、その後の技 術士 (建設部門/建設環境) 合格にも つながりました。

最後に私事ですが、わが家では妻が 家庭菜園、息子がカブトムシの飼育に 熱中しています。理科離れが懸念され ている現在において、理系一家?で頑 張っています。今後も私が生活環境部 門、妻と息子が自然環境部門?の技術 者として、家族一体で資質の向上に努 めていきたいと考えています。

JEAS in Hiroshima

環境アセスへの思い

【会社紹介】

中電環境テクノス株式会社は、中国電力グループとして火力・原子力発電 所の環境保全設備や発電に必要な付属 設備の運転、化学分析、環境調査、海 運など、環境分野を主体とした技術と 幅広いサービスを提供しています。

私が所属する環境部環境調査グループでは、①環境影響評価法などに基づ



中電環境テクノス(株) TEL.082-242-0291 http://www.e-ckt.jp/

く各種手続き、環境調査などの総合コンサルタント、方法書、準備書、評価書など各図書の作成、②水質、底質、海生生物、大気、騒音・振動、農作物・樹木、社会環境などの調査及び解析、③環境調査計画資料の作成、環境用語集の作成やパソコンによる作図、作表などの業務を行っています。

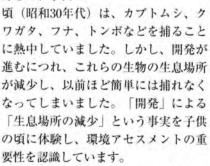
【携わっている業務】

私は、入社以来約30年間にわたって環境調査業務を担当しており、主に火力、原子力発電所の建設などの環境アセスメントにおける海域の水質、底質、海生生物調査に携わってきました。近年では、これらの業務の他に、テレメータによる大気汚染物質の連続測定業務なども行っています。今後も、いろいろな業務に携わり、環境分野の幅広い知識を習得したいと思っています。

【環境アセスへの思い】

自然環境部門(H20年) 下西 孝

> 私は自然と触 れ合うことが大 好きで、子供の



環境アセスメントがこれまで以上に十分に機能し、「開発」と「生物多様性の維持」という相反する課題を克服し、100年後も生物多様性が維持されることを願っています。また、環境アセスメント士として微力ではありますが、「開発」と「生物多様性の維持」の両方に貢献していきたいと考えています。



JEAS in Nagasaki

環境アセスメント士資格に対する期待

自然環境部門(H17年) 中原泰彦

西部環境調査株式会社は九州の西の 端、長崎県佐世保市の東部に位置する 三川内地区の佐世保テクノパーク内に 本社があります。

当社は陸域調査部門、海域調査部門、 分析・解析部門の3部門で構成され、幅 広い環境分野に取り組んでいます。陸 上・海域両部門ともに物理環境分野、 生物分野及び化学分野の専門スタッフ



西部環境調査(株) TEL.0956-20-3232 http://www.serc.jp/

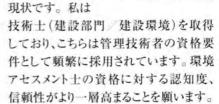
をそろえ、多角的な調査・解析・評価 を実施しております。

わが社では、「地球的に考え、地域的に行動しよう」というWHOのテーゼを掲げ、「グローバルに考え、ローカルに行動する」をモットーに、「顧客の満足のため、顧客ニーズの追求に努め、環境調査で社会に貢献する企業を目指す。」をISOの品質方針とし、自然界の現象を適正・的確に計量・調査・研究し、適切なアセスメントを行うことにより、長期的な環境保全の「みちしるべ」を提示できればと考えながら業務にあたっております。

私が環境アセスメント士を受験した 理由は、開発で失われる自然・野生生 物を保全する仕事にもっと携わってい きたいという思いからでした。

しかし、残念ながらこれまで環境アセスメント士の資格を活用できたのは、

中原泰彦 1例のみときわ めて少ないのが



環境アセスメント士の継続教育(CPD)制度では、5年間で250単位を取得することが更新の条件となっています。 CPDの取得は、私にとっては予想以上に厳しく、高いハードルでした。

CPDによる更新制度は、技術士には 現在のところ存在しないため、環境ア セスメント士の信頼性向上へのアピー ルポイントとなると考えられます。間 近に控える更新がそのよい機会となり、 環境アセスメント士の活躍の場が大き く拡がっていくことを期待しています。

JEAS in Aichi

「技術士」取るなら「アセス士」も

生活環境部門(H17年)·自然環境部門(H18年)

吉田 謙

私の勤務する株式会社テクノ中部は、 名古屋市に本社がある中部電力グループの会社です。事業としては、環境調査・測定・分析の他、発電所における 各種設備の運転・管理、発電所燃料の 荷役・通関、石炭灰の販売、海事コン サルタント等多岐にわたります。

このうち環境技術部門は、会社設立 以来30年以上にわたり、環境アセスメ



(株)テクノ中部 TEL.052-614-7167 http://www.techno-chubu.co.jp/

ント、水質・生物・大気・騒音等の各種環境調査、測定・分析及び研究を実施してきており、環境に関して幅広く豊富な実績があります。特に、魚類等水生生物の行動把握やモニタリングに有効な、バイオテレメトリー技術は、誇ることのできる技術の一つです。

私は、平成3年に入社以来、カジメ 類・ガラモ類の藻場造成、発電所への クラゲ流入防止研究、発電所へ流入し た海生生物の有効利用調査、海域・河 川の水質・水生生物調査、発電所関連 の海域モニタリング等、水域の各種環 境調査・研究に携わってきました。

また、業務の傍ら自己研鑽にも励み、 技術士(水産部門・建設部門)、環境 計量士(濃度関係)等の国家資格を取 得しました。環境アセスメント士につ いては、平成17年度に生活環境部門、 18年度に自然環境部門と、両部門を取 得しておりま す。取得のため の勉強について

は、技術士の受験時期とほぼ重なっていたので、環境影響評価の基本を一通り再確認する程度でしたが、何とか合格できました。現在あるいは近い将来技術士取得を目指している方、ぜひ環境アセスメント士にもチャレンジして、一兎のみならず二兎も三兎も得て下さい。

名刺に環境アセスメント士を入れて 4年以上になり、客先等から資格について尋ねられる度にPRをし続けています。まだ認知度の低い資格ですが、資格の認知度や信頼性の向上に少しでもつながればと思います。

今後とも微力ながら、自己研鑽と業界・資格のPRに努めていきたいと思います。

